

大戸緑地希少猛禽類調査

西部公園緑地事務所
工事課 野山北・六道山公園建設担当
岡 加奈子

1. 業務概要

1. 1 調査目的

本委託は、大戸緑地の自然環境の保全と、適切な公園整備や管理に資するため、町田市相原町周辺の希少猛禽類のモニタリング調査を行うものである。

1. 2 発注者

東京都西部公園緑地事務所

1. 3 受託者

株式会社 セルコ

1. 4 契約期間

令和3年10月13日から令和4年11月30日まで

1. 5 委託場所

東京都町田市相原町地内
調査範囲を以下に示す。

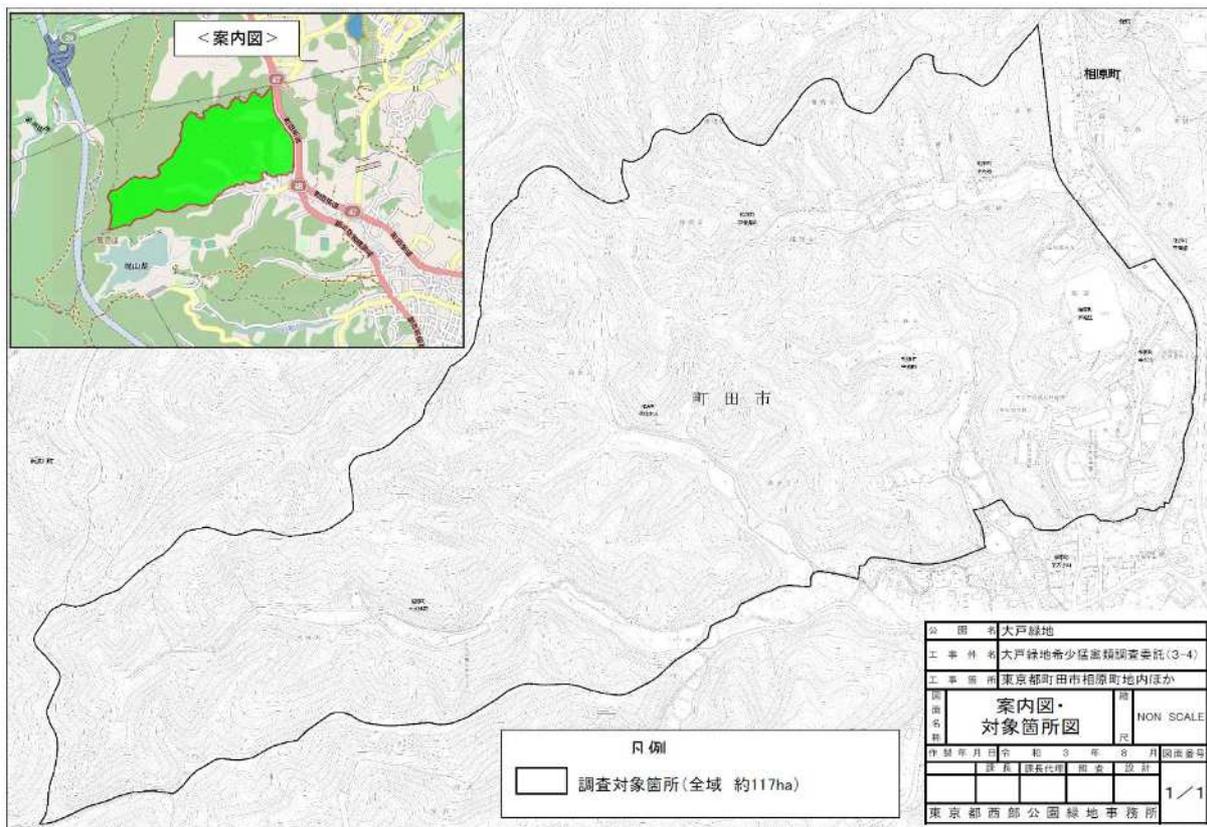


図1-1 調査範囲

2. 業務内容

2.1 調査項目

過年度に実施した猛禽類調査の結果、大戸緑地内とその周辺では、ノスリ・ハチクマ・オオタカ・夜行性猛禽類の営巣が確認されている。本業務では、過去に繁殖が確認されてきた希少猛禽類を対象にしたモニタリング調査を実施した。

調査項目等を表2-1に示す。

表2-1 調査項目

| 調査項目 | | 地点数 | 調査時期、回数 |
|------------|----------|------|-------------------------|
| ハチクマ繁殖状況調査 | | 4地点 | 5～8月、4回以上 (2日連続/1回) |
| オオタカ調査 | 生息状況調査 | 複数地点 | 2月～4月、6回 (1回あたり1日以上) |
| | 繁殖状況調査 | 複数地点 | 5月～8月、8回 (1回あたり1日以上) |
| | 周辺繁殖状況調査 | 複数地点 | 1月～3月、4回 (1回あたり1日以上) |
| ノスリ繁殖状況調査 | | 複数地点 | 1～7月、7回程度、 合計14日以上。 |
| 夜行性猛禽類調査 | | 複数地点 | 1～6月、4回 |

2. 2 ハチクマ・オオタカ・ノスリ調査方法

見通しの良い箇所に調査定点を設定し、8～10倍の双眼鏡及び20～60倍の望遠鏡等を用い、全方位においてハチクマ・オオタカ・ノスリ等の猛禽類を確認した。

調査時間は、早朝（日の出から1時間以内）から7時間とし、各調査員は、トランシーバーにより情報交換を行い、複数定点から同一個体を観察するように努めた。

調査対象とする猛禽類を確認した場合は、年齢、性別、行動、時刻等の情報を可能な限り記録し、飛翔経路等の確認位置を地図上に記録するとともに、必要に応じて写真撮影を行い、個体識別情報を収集した。

なお、調査対象種は、ハチクマ・オオタカ・ノスリとするが、その他の希少猛禽類が出現した場合には、併せて記録を行った。

また、営巣地周辺に立ち入る際は、ビデオカメラ等を用いて人為的な圧力がかからないよう配慮した。

調査時間及び日の出時間を表2-2、調査風景例を写2-1に示す。なお、猛禽類の出現状況に応じて、適宜定点を移動した。

表2-2 調査時間及び日の出時間

| | 調査時間 | 日の出時間 | ハチクマ | オオタカ | ノスリ |
|----|------------|-----------|------|------|-----|
| 1月 | 7:30～14:30 | 6:42～6:51 | - | ○ | ○ |
| 2月 | 7:00～14:00 | 6:13～6:41 | - | ○ | ○ |
| 3月 | 6:30～13:30 | 5:29～6:11 | - | ○ | ○ |
| 4月 | 6:00～12:00 | 4:50～5:28 | - | ○ | ○ |
| 5月 | 5:30～12:30 | 4:27～4:49 | ○ | ○ | ○ |
| 6月 | 5:30～12:30 | 4:27～4:28 | ○ | ○ | ○ |
| 7月 | 5:30～12:30 | 4:29～4:48 | ○ | ○ | ○ |
| 8月 | 5:30～12:30 | 4:49～5:12 | ○ | ○ | - |



写2-1 調査風景例

2. 3 夜行性猛禽類調査

公園内に営巣する夜行性猛禽類について生息状況及び繁殖状況を確認した。調査は、日の入り1時間前から日の入り3時間後まで(表2-3参照)とした。

日中に活動する種であれば目視観察が行われるが、フクロウのような夜行性の種は目視で補捉することが困難であり、鳴き声を手掛かりとして生息状況を把握した。

調査員が現地で直接鳴き声を確認する他、複数地点に録音機(ICレコーダー)を4箇所設置し、より広い範囲に渡って調査した。録音機は時間指定によるタイマー録音が可能な機種を選定し、対象種の調査に適切な時間帯に録音が実行されるように設定した。

表2-3 調査時間及び日の出時間

| | 調査時間 | 日の入時間 |
|----|-------------------|-------------|
| 1月 | 15:39~20:07のうち4時間 | 16:39~17:07 |
| 2月 | 16:08~20:35のうち4時間 | 17:08~17:35 |
| 3月 | 16:36~21:02のうち4時間 | 17:36~18:02 |
| 4月 | 17:03~21:27のうち4時間 | 18:03~18:27 |
| 5月 | 17:27~21:51のうち4時間 | 18:27~18:51 |
| 6月 | 17:51~22:01のうち4時間 | 18:51~19:01 |

3. 調査結果

3. 1 確認種の概要

本調査で確認した猛禽類は3目3科9種であった。猛禽類確認種一覧を表3-1に示す。

表3-1 猛禽類確認種一覧

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | | 選定基準 | | | |
|-----|------|------|-------|-----------------------------|------|----|----|-------|
| | | | 和名 | 学名 | ① | ② | ③ | ④ |
| 1 | タカ | タカ | ハチクマ | <i>Pernis ptilorhynchus</i> | | NT | EN | CR+EN |
| 2 | | | ツミ | <i>Accipiter gularis</i> | | | NT | VU |
| 3 | | | ハイタカ | <i>Accipiter nisus</i> | | NT | VU | 希 |
| 4 | | | オオタカ | <i>Accipiter gentilis</i> | | NT | VU | VU |
| 5 | | | サシバ | <i>Butastur indicus</i> | | VU | CR | CR+EN |
| 6 | | | ノスリ | <i>Buteo buteo</i> | | | VU | VU |
| 7 | フクロウ | フクロウ | フクロウ | <i>Strix uralensis</i> | | | EN | NT |
| 8 | | | アオバズク | <i>Ninox scutulata</i> | | | CR | VU |
| 9 | ハヤブサ | ハヤブサ | ハヤブサ | <i>Falco tinnunculus</i> | ○ | VU | VU | CR+EN |
| 計 | 3目 | 3科 | 9種 | | 1種 | 5種 | 9種 | 9種 |

・和名、配列等は、日本鳥学会（2012）『日本産鳥類目録』（改訂第7版）に準じた。

・重要種の選定基準は以下のとおりである。

①：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

○：国内希少野生動植物種

②：環境省レッドリスト2020

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③：東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版（本土部南多摩）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

④：神奈川県レッドデータブック2006WEB版

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、

VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、希：希少種

3. 2 ハチクマ

現地調査により、公園周辺にてハチクマが飛翔する様子を確認した。ペアによるディスプレイ（波状飛行）が頻繁にみられ、また、過年度の営巣地上空を飛翔する様子も確認されたため、繁殖の可能性を考慮して8月まで調査を継続した。

しかし、巣材運びや餌運搬といった繁殖を示唆する行動は確認しなかった。また、一般的なサイクルであれば幼鳥の巣立ち時期である8月以降もディスプレイ（波状飛行）が頻繁に確認されていたことから、今年度は繁殖しなかったものと思われる。

なお、公園周辺において特定の樹林地に出入りする様子はなかったものの、過年度調査では複数ペアが飛来していたことから、周辺の地域においても別の個体が飛来している可能性がある。

ハチクマの確認状況を表3-2に示す。

表3-2 ハチクマ確認状況

| 確認概要 | |
|------|---------------------|
| 5月 | 複数個体が飛翔している様子を確認した。 |
| 6月 | 波状飛行する様子を確認した。 |
| 7月 | 波状飛行する様子を確認した。 |
| 8月 | 波状飛行する様子を確認した。 |



ハチクマ確認状況

3. 3 オオタカ

① 生息状況調査、② 繁殖状況調査、③ 周辺繁殖状況調査によりオオタカの繁殖を確認した。

現地調査により、繁殖が成功し、2羽の幼鳥が巣立つのを確認した。

オオタカの確認状況を表3-3に示す。

表3-3 オオタカ確認状況

| | 確認概要 |
|----|---|
| 1月 | 狩りをする個体を確認した。 |
| 2月 | 飛翔する個体を複数回確認した。 |
| 3月 | ペアによる飛行や鳴き交わりを確認した。 |
| 4月 | 営巣林付近で鳴き声が聞こえた。 |
| 5月 | 巣内で抱卵する雌を確認した。 |
| 6月 | 6月上旬に少なくとも雛1羽を確認し、排泄行動がみられた。また、ペアの雌が巣上にて雛の毛づくろいや見張り等を行っていた。 6月下旬に雛2羽を巣の上に確認した。雛は、巣上で飛ぶ練習をしていた。 |
| 7月 | 7月上旬に巣の上に幼鳥の姿はなく、木の上から2個体の鳴き声を確認した。7月下旬まで、営巣林周辺で幼鳥の姿及び鳴き声を確認した。 |
| 8月 | オオタカの確認はなく、既に分散したものと思われる。 |



オオタカ確認状況

3. 4 ノスリ

現地調査により、ノスリの繁殖を確認した。また、本調査中に2羽の幼鳥が巣立つのを確認した。

ノスリの確認状況を表3-4に示す。いずれも、事前踏査や他項目調査における確認記録を含む。

表3-4 ノスリ確認状況

| | 確認概要 |
|----|---|
| 1月 | ペアで飛翔する様子を確認した。 |
| 2月 | ペアで飛翔する様子を複数回確認した。また、ペアによる鳴き交わしやディスプレイも複数回確認した。 |
| 3月 | ペアで飛翔する様子を複数回確認した。また、断続的な鳴き声やディスプレイも確認した。 |
| 4月 | 低空飛行や狩りをする様子を確認した。 |
| 5月 | 巣内に少なくとも1羽の幼鳥を確認した。白い羽毛に覆われており、孵化から数日以内と思われる。餌運搬や他個体の排斥行動がみられた。 |
| 6月 | 6月上旬に、巣内に2羽の幼鳥を確認した。巣内で雛2羽を確認した。全体的に幼羽が生え揃い始めていた。 6月下旬に既に2羽とも巣立ちを迎えており、営巣林内を移動する様子を確認した。 |
| 7月 | 2羽の幼鳥が営巣林周辺を鳴きながら移動していた。 |
| 8月 | 2羽の幼鳥が営巣地周辺を飛翔する様子を確認した。 |



ノスリ確認状況（雛の様子）

3. 5 その他の猛禽類（夜行性猛禽類を除く）

現地調査において、その他の猛禽類としてツミ、ハイタカ、サシバ、ハヤブサを確認した。いずれも確認回数が少なく、繁殖を示唆する行動もみられていないため、一時的な利用と考えられる。

3. 6 夜行性猛禽類調査

現地調査において、夜行性猛禽類としてフクロウとアオバズクの2種を確認した。

鳴き声の確認地点は毎回異なっており、鳴き声の確認場所付近には営巣に適した樹洞はなく、営巣地としての利用ではなく、採餌場として利用している可能性がある。

3. 7 行動圏の内部構造（行動圏・高利用域・営巣中心域）分析

「猛禽類保護の進め方」及び「猛禽類保護の進め方（改訂版）」のほか、過年度業務で策定されている「猛禽類保護管理指針」に沿って行動圏、高利用域、営巣中心域の内部構造について解析した。

3. 8 過年度調査を含めたとりまとめ

猛禽類は、過年度調査を含め、4目3科9種が確認されている。

過年度調査を含めた猛禽類確認状況を表3-5、「大戸緑地希少猛禽類配慮指針（平成29年3月）」以降の繁殖状況を表3-6に示す。

確認された猛禽類の中には、主に昆虫類を捕食するハチクマ、主に鳥類を捕食するオオタカ、主に小型哺乳類を捕食するノスリ等が含まれている。捕食対象の異なる猛禽類が複数生息しており、多種多様な生態系が成り立っていることが見受けられる。

なお、種毎の特性や保全上の留意点等については、「猛禽類自然環境保全計画書（案）」に記した。

表3-5 過年度調査を含めた猛禽類確認状況

| No. | 目名 | 科名 | 種名 | | 出現状況 | | 選定基準 | | | |
|-----|------|------|---------|-----------------------------|------|-----|------|----|-----|-------|
| | | | 和名 | 学名 | 過年度 | 本年度 | ① | ② | ③ | ④ |
| 1 | タカ | ミサゴ | ミサゴ | <i>Pandion haliaetus</i> | ○ | | | NT | EN | VU |
| 2 | | タカ | ハチクマ | <i>Pernis ptilorhynchus</i> | ○ | ○ | | NT | EN | CR+EN |
| 3 | | | トビ | <i>Milvus migrans</i> | ○ | | | | NT | |
| 4 | | | ツミ | <i>Accipiter gularis</i> | ○ | ○ | | | NT | VU |
| 5 | | | ハイタカ | <i>Accipiter nisus</i> | ○ | ○ | | NT | VU | 希 |
| 6 | | | オオタカ | <i>Accipiter gentilis</i> | ○ | ○ | | NT | VU | VU |
| 7 | | | サシバ | <i>Butastur indicus</i> | ○ | ○ | | VU | CR | CR+EN |
| 8 | | | ノスリ | <i>Buteo buteo</i> | ○ | ○ | | | VU | VU |
| 9 | フクロウ | フクロウ | フクロウ | <i>Strix uralensis</i> | ○ | ○ | | | EN | NT |
| 10 | | | アオバズク | <i>Ninox scutulata</i> | ○ | ○ | | | CR | VU |
| 11 | ハヤブサ | ハヤブサ | チョウゲンボウ | <i>Falco tinnunculus</i> | ○ | | | | VU | |
| 12 | | | ハヤブサ | <i>Falco tinnunculus</i> | ○ | ○ | ○ | VU | VU | CR+EN |
| 計 | 3目 | 4科 | | 12種 | 12種 | 9種 | 1種 | 6種 | 12種 | 10種 |

・和名、配列等は、日本鳥学会（2012）『日本産鳥類目録』（改訂第7版）に準じた。

・重要種の選定基準は以下のとおりである。

①：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）

○：国内希少野生動植物種

②：環境省レッドリスト2020

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

③：東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版（本土部南多摩）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、*：留意種

④：神奈川県レッドデータブック2006WEB版

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、希：希少種

表 3-6 「大戸緑地希少猛禽類配慮指針（平成 29 年 3 月）」策定以降の繁殖状況

| 種名 | 過年度の繁殖状況 |
|-------|---|
| ハチクマ | 【H29】 A ペア:造巣後、繁殖失敗。 【H29】 B ペア:繁殖成功。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 ディスプレイを確認したが、繁殖はしていない。 |
| ツミ | 【H28】 造巣を確認したが、繁殖失敗した。 【H29】 繁殖示唆行動が確認されたが繁殖の成否は不明。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 繁殖示唆行動が確認されなかった。 |
| ハイタカ | 【R4】 上空通過のみ。 |
| オオタカ | 【H28】 繁殖成功。 【H29】 繁殖成功。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 繁殖成功。 |
| サシバ | 【R4】 上空通過のみ。 |
| ノスリ | 【H28】 繁殖成功。 【H29】 繁殖成功。 【H30】 繁殖成功。 【R1】 繁殖成功。 【R4】 繁殖成功。 |
| フクロウ | 【R1】 繁殖示唆行動は確認されなかった。 【R4】 繁殖示唆行動は確認されなかった。 |
| アオバズク | 【R1】 繁殖示唆行動は確認されなかった。 【R4】 繁殖示唆行動は確認されなかった。 |
| ハヤブサ | 【R4】 上空通過のみ。 |